

# 「学びのサイクル」の具体化・見える化

津山市立北陵中学校  
校長 定久 秀明  
令和7年4月

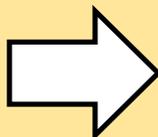
授業（授業改善）

主体的な学習への転換

宿題（家庭学習）

## 「学びのゴール」を具体化した授業づくりと 「思考・判断・表現力」の向上

- ☆1「教科目標」を行動化した学習に対する「振り返り」の実施
  - ・生徒の思考が中心となる学習課題の設定
    - ⇒生徒に課題解決の見通しを持たせる。
  - ・「学びのあしあと」等を認識させる「振り返り」の実施
    - ⇒学習成果の自覚と思考過程の認知を促す
  - ・「思考・判断・表現力」の向上を図る。
    - ※見通しを持つ → 共有する → 比較検討 → 最適解。
  - ・「読解力」「表現活動」の向上を意識した指導
    - ⇒「よむYOMU」（毎週金曜）、「まなっぷ」（毎週月曜）の実施



## 自律的学習者（マネジメント力）の育成

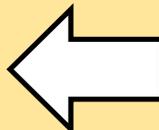
- ☆1「生活記録」を活用した内省から家庭学習の充実を図る
  - ・帰学活：指導と点検によるセルフマネジメント力定着と育成
  - ・朝学活：学習時間・スマホ・睡眠等の「振り返り」をさせる。
    - ⇒特別活動を充実させた生徒活動の活用
  - ・端末持ち帰りでのnavimaを活用した自己調整学習
- ☆2自主学習の促進：課題改善を意識させる
  - ・「学び方指導」による学習方法の確立を図る
    - ⇒学活、テスト計画、レポート等のリンク
  - ・授業に連動した課題による家庭学習の実施



補充学習（学び直し）

## 授業における学び直しのレベルアップと 補充学習の充実

- ☆1「学び直し」を位置付けた学習サイクルの位置付け
  - ・授業による「学び直し」：既習事項の利用（思考含）
  - ・単元による「学び直し」：教科目標達成の検証
- ☆2「思考・判断・表現」領域に関わるテスト問題の直し直し
  - ・定期考査後に課題を重点化した復習を実施
    - ・全国県調査問題の「書くこと」領域を活用
- ☆3補充学習の充実
  - ・「確認テスト」「補習」「自主学習」などの活用
  - ☆スクールフレンドを活用した放課後補充学習の実施



定着度確認（小テスト）

## 教科目標の達成に繋がるテストの実施

- ☆1「振り返り」等を活用した基本事項の定着確認
  - ・早期のつまずきの見取りと認知促進
- ☆2定期テストや単元テスト等の分析から授業を改善する
  - ・小単元ごとの「確認テスト」等を利用した定着確認
  - ・「定期考査」等におけるベンチマークの活用
    - ※短期サイクルによる成果と課題の認知からマネジメントのアップデートを促す。
      - ⇒正答率から苦手分野を把握し授業改善を行う。
      - ⇒学習内容と学習方法の検証を区別する
  - ・navimaの生徒個人票・クラス表からの授業改善
  - 「百問繚乱」の活用

職員で取組を共通理解して進めましょう。管理職、研究主任、学力向上担当者等で定期的に確認をしましょう。

# 「学びのサイクル」の具体化・見える化(案)

津山市立北陵中学校  
校長 定久 秀明  
令和7年4月

## 授業（授業改善）

### 学習のゴールを意識した授業づくり

- ・Unitを通してつけさせたい力を意識した「めあて」を毎時間提示する
- ・『めあて』に応じた「振り返り」を毎時間OPPシートなどを活用して記入させ、学習の成果を自覚させる（「書き方指導」も行う）
- ・目的と場面と状況を設定した、英語を活用する必然性を持たせる単元設計
- ・読解力育成を意識し、正確に読み、問いの意味を正確に捉えさせる解き方スキルの学習

## 英語科

## 宿題（家庭学習）

### 授業のための宿題

- ・基本事項の習得や既習事項を活用する課題など、授業につながる家庭学習を提示する
- ・基礎の学び直しのための課題を提示する
- ・廊下などに掲示して学習内容を全体共有する
- ・学習者用デジタル教科書の本文音声を何度も聞くことにより、リスニング力の向上させる
- ・navimaを活用した個人に基礎学力の定着

## 補充学習（学び直し）

### 既習内容の復習

- ・思考力や表現力を問うテスト問題などの解き直し（定期テスト・課題テスト・自己診断テストなど）
- ・高校生ボランティアを活用した放課後補充学習や3年時の朝・帰り学習での既習事項の学び直し（ふりかえりプリント集、AIドリルnavima、「まなびポケット」等なども活用）
- ・学び合いややりとりを通しての既習事項の定着

## 定着度確認（小テスト）

### 既習内容の再確認

- ・小单元ごとの確認テストやフラッシュ型教材等を活用した定着確認（ふりかえりプリント集、AIドリルnavima、「まなびポケット」等なども活用）
- ・リスニングテストやパフォーマンステストなどを通して言語活用能力や学習のつまづきの見取り
- ・全校一斉単語テストの実施（正答率8割）

職員で取組を共通理解して進めましょう。管理職、研究主任、学力向上担当者等で定期的に確認をしましょう。